麗紀事。大元諸塑記、大元倉庫記、大元氈罽工物記。大元官制雜記唐折衝府考補(羅振玉)日知錄補正(李過孫)永觀堂海內外雜文(王國維)曲律(明王驥德)なり。〔以上那波〕

◉世界大戰史　前篇　　箕作元八編

五箇年の久しきに亙りし世界大戰中に於て動もすれば日々目前の戰局將來の豫測に注意を集中し、飜つて過去戰役全局の經過を統合的に觀察することを忘りし人々も、平和克復の今日に於ては この曠古未曾有の大戰を終始審さに全体として史的回想を試んとする希望の最も切なるものあるや必せり。今やこの彼我大活動の決算期ともいふべき講和會議の開かゝ、時機に際して本書の出でたるは確に一般讀書界の感謝の意を表する所なるべし。本書は箕作博士の下に各方面專攻の士が分擔して努力を傾注したる成果にして、全篇を二部に分ち、第一部には大戰亂の由來戰前の外交及交戰各國の內政、經濟財政を說き、第二部には陸海両方面の戰史や各時期並に各方面に分つて詳細に叙述し、加ふるに多數の寫眞版地圖や挿入し戰役一般の概況、各地戰鬪の經過を知得するに便ならしめたり。本文前後二部を合して千二百餘頁に達し、叙說平明を旨とし且興趣ある筆致を以てせり。もとより普く各方面に亙り最新の事件迄を包容して說述されしものなれば、資料の蒐集事の調査萬全を期し難く間々闕漏なきにあらざんも一般讀者に向つて惠澤を與ふること多大なるべし(富山房發行、價六、〇〇)

◉A.J. Carlyle: A History of Mediaeval Political Theory in the West. Vol. III. 1615

中世の思想學說をこの時期の歷史々實を背景として論述せる稀有の好著として有名なる本書の第三卷は十世紀より十三世紀に至る羅馬法學者及教會法學者の政治學說を叙說したる既出第二卷の後を承けて、第一部政治論に及ぼせる封建制度の影響第二部十一、十二両世紀に於ける政治學說を論述したり。吾人の特に興味を覺ゆしは、封建制度に就いて其劃一的成形を認めずして、不斷の發展變移を主張したる見解(Part I, Chapter I.)並に中世に於ける世界的帝國の思想が從來過重視せられしを斥け、所謂神聖羅馬帝國の觀念はこの時期に於て決して左程顯著なる主義思想として人心を支配せしものにあらざる旨(Part II, Chapter VII)を論ぜし點にあり〔以上植村〕

◉帝都と近郊　一册　　小田內通敏著

大倉發身氏出資の下に完成る聚落地理學(Siedelungskunae)に關するもの、緒說には「江戸及東京の都市の發達」「東京市の郊外地帶」として帝都の歷史的變遷を畧說し、特說、卽本論は「東京市の西郊」と題して、專ら西郊のみの「自然的環境」(境域、地形、水系、地質、土壤、氣候)「住民と居住」(人口、職業、居住

狀態）「土地と其利用」「農業」「工業」「交通機關」を詳說せり。內容より云はゞ寧ろ「東京市の西郊」と題すべき書なり。臺地なる西郊に對して低地たる東郊の研究は興味ある對照にして、將來著者の著手を俟たんとす。此種の研究は本邦にては未開拓に屬せしを遂にかゝる經りだる研究を發表せる著者の勞苦は吾人の深く敬服する所なり。著者自撮の寫眞とスケッチは印刷の鮮明なると相俟て本書の光彩を添へたり。猶望蜀ながら大体に於いて晦澁の氣味あり之を讀むに甚だ困難を感ずるは餘りに普通地理書の形式に囚はれて境域、地形、水素、地質など、綱目を立てたる爲なるべし、殊に其研究法か現代の水平的差異に重きを置きて工業區、住宅區、蔬菜栽培區、盆栽植木栽培區（著者は此名を用ひされど）農業區など、分けて其現狀を縷述するに偏し、僅かに古老の話位に其變遷を十年乃至二十年已往に止めたるは如何、都市と共に急激に變りゆく郊外地區の研究には歷史的の研究法を適用すべきには非るか。著者は「參考すべき良書もない」といへども、シュリューター氏は Geographische Zeitschrift に數回斯學の研究法を講じ、又單行本として東北チューリンゲンの研究を出せり。フォーセット氏が一昨年の Scottish Geographical Magazine にエデールと云ふペンニン山脈中の一溪谷を例として出したる論文も參考の價値あり。是等は何れも歷史的の研究法に依れるものにして著者の一讀を煩はさんとす。（大倉出版部發行價□□□）〔下田〕

●英文　ミクロ子シヤの土俗調査　一册　松村瞰著

東京帝國大學人類學教室の著者が大正四年我が占領地たる南洋諸島に調査の爲め出張せられし折の結果を、東京帝國大學理科大學紀要の一として出版せられしものに係り、原題を Contribution to the Ethnogoraphy of Micronesia と云ふ、鮮明なる玻璃版の圖版三十三葉、石版色刷二頁大のもの一葉なり、東西兩カロリン群島土人の各種土俗に關し、其の觀察調査する所を記述せる明快なる叙述は其の圖版の豐富と相俟ちて頗る要領を竭したるを見る。蓋しミクロ子シヤ土俗研究上に對する一大寄與なる可し。（東京帝國大學理科大學發行、價六二〇）

●佛文　千島アイヌ　一册　鳥居龍藏著

是れ亦東京帝國大學理科大學紀要の一にして、往年著者が北千島を調査せられし處を基礎とし、其後に於ける研究の結果を集め遂に此の尨然たる Les Ainou des Iles Kouriles の一册をなす。玻璃版及石版色刷の圖版三十八葉を收め、千島アイヌの體質、言語土俗、傳說等より彼等の石器時代に關する詳細なる記述を試み、著者の該博なる智識を披瀝したり。就中アイヌ語とアシリヤ語の類似を擧げ、スメル人、カルデヤ人とアイヌクシ人との關係を想像し、クシ（越）は Kassites と相似るを說き、アイヌが東移の以前